
月夜に贈ろう。

紅崎 夏妃

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

月夜に贈ろう。

【Nコード】

N5396I

【作者名】

紅崎 夏妃

【あらすじ】

毎朝、すれ違う男子高校生。コンビニで、再会し、自分の妹の同級生と知る。夏休みを利用し、職場に、バイトで現れた「瞬」に、次第に魅かれ始める「花梨」。まだ、幼い彼との、切ないひと夏の恋。

(前書き)

覚悟を決めた別れ。それでも、人は、迷う。理性と感情。もし、もう少し、大人だったら……。若かったら……。

忘却。

「神様が、人に与えた知恵なんだって」

誰かが、言つてたっけ。自分で決めた「別れ」だったのに、理性と感情が、闘う。本当は、一緒にいたかった。だけど、それは、我儘自分の気持ちのまま、突っ走れば、周りを、傷つける。彼も、もう、自分が、身動きとれず、悩んでいるのは、見て取れた。自分のした事は、責任をとらなくては、ならない。彼が、そんなに、強い男でない事は、彼女が、よく知っていた。

「別れてあげよう」

彼を楽にする方法……。一度、会っただけで、彼は、自分以外の女性との間に、子供を、もうけてしまった。

「ずーっと、一緒にいたい」

「一緒にいるだけで、満足」

そう、言っていて、1週間もしない間だった。突然の、報告。彼を信じていた彼女は、苦しんだ。苦しみ抜いて、出した答えは。冷たい別れ。彼に誤解されてもいい。いつ誤解が、とけるか……。判らない。ただ、今、彼女に、出来るのは、別れる事と、彼を記憶から、抹消してしまう事。新しく、生まれてくる命の為に。全て、消し去る。

「そんな映画、あつたけ？」

花梨は、妹の麻衣莉のヘッドフォンから漏れてくる映画の歌に、五月蠅そうに反応した。昨夜も、残業で、まだ、眠いのだ。まだ高年生の麻衣莉が、のんびりとしているのが、少し、羨ましい。

「お姉ちゃん。いつも、ブーたれてると、ほんと。彼氏できないよ！」

ヘッドフォンを、外しながら麻衣莉は、ようやく、登校の準備を始めた。

「やな、妹。送ってて、やんないから！」

花梨は、車のエンジンを、かけた。毎日、平凡な日々。毎朝、出勤して、昨日のデータを、調べ、受注データを、作る。忙しいので、休憩も、デスクで、する事も多く、一日中、座りっぱなし。おかげで、小さいお尻に、吹き出物が、できつつ、あった。

「これじゃあ、彼氏は、出来ないわ……。」

妹のいう事も一理ある。楽しみといえば、最近、通勤途中、すれ違ふ男子高校生。少し、ピアスをし、髪を染め、ちよつと、不良っぽい感じが、花梨のお気に入りだった。

「そおいや……。麻衣莉の、学校の制服に、似てるか？」

紺のブレザーと、チエックのパンツが、それらしかったが、毎朝、駅付近で、みかけるだけの楽しみ。特に、深く、知ろうとしなかった。

「いまどきの若者……。だね。」

男子高校生は、彼女らしき子と、手を、つなぐと、駅の構内へと消えていった。見送った所で、信号が、変り、花梨は、慌てて、車を発進させた。何気なく、後姿を見送りながら……。これが、花梨を切なくさせる瞬との、出逢いの始まりである事も、知らずに……。

……「続・月夜に贈ろう」に続きます。……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5396i/>

月夜に贈ろう。

2010年10月9日22時15分発行